

技術士第二次試験受験申込書

文部科学大臣指定試験機関 公益社団法人 日本技術士会会長 殿
下記により、技術士第二次試験を受験したいので、申し込みます。

平成 30 年 4 月 3 日

(フリガナ)	ニシハラ ヒロノリ	受 験 地	B 東京都		
氏 名	西原 博徳 (男口・女口)	技 術 部 門	10 上下水道部門		
生 年 月 日	昭和 31 年 9 月 13 日生	選 択 科 目	01 上水道及び工業用水道		
本 籍 地	福岡県	専門とする事項	水道施設運営		
現 住 所	〒 390-0847 長野県 松本市笹部1丁目4-8-10	総合技術監理部門の受験を 申し込む者で、右のいずれ かに該当する者は口に を 付すこと	他の技術部門と併願	☐	
	マンション名等 ドエルA102		選択科目が免除	☐	
	電話番号 090-9477-7539	最 終 学 歴	学校名 九州工業大学		
勤 務 先	勤務先名 メタウォーター株式会社		学部学科名 工学部制御工学科		
	支店・部課名等 ppp本部プロジェクト運営部 松本事務所				
	電話番号 0263-40-3110		卒業(修了)年月	昭和 54 年 3 月	

下記の該当する口に を付し、必要事項を記入すること。

☐	技術士第一次試験合格証番号及び合格年月	第 0153507 号	平成 25 年 12 月
☐	技術士補登録番号及び登録年月日	第 号	年 月 日
☐	技術士法第三十一条の二第二項の規定により文部科学大臣が指定した大学その他の教育機関における課程及び当該課程の修了年月		
	学校名	課程	年 月

総合技術監理部門の選択科目の免除を受ける場合には、下記の該当する口のいずれかに を付し、必要事項を記入すること。

技術士第二次試験合格証番号又は技術士登録番号		合格年月又は登録年月日	合格した技術部門
☐	合格証番号 第 号	年 月	
☐	登録番号 第 号	年 月 日	

※	整 理 番 号	
	技術士法第六条第二項第一号	☐
	技術士法第六条第二項第二号	☐
	技術士法第六条第二項第三号	☐

- 備考 1 ※印欄には、記入しないこと。
2 氏名の欄中()内は、該当する口に を付すこと。
3 指定試験機関に申し込む場合には、所定の手続により
受験手数料を納付し、払込受付証明書をはること。
4 用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする。

平成 29 年 12 月 4 日撮影

写真貼付欄

第二次試験の申込前 6
箇月以内に半身脱帽で
撮った縦 4.5 センチメ
ートル、横 3.5 センチ
メートルの写真で本人
と確認できるものをは
ること。

受験手数料払込受付証明書貼付欄

氏名西原 博徳

※ 整理番号

業務経歴票 [証明書]

	大学院名	課程（専攻まで）	研究内容	在学期間		
				年・月～年・月	年月数	
詳細	勤務先 (都県まで)	所在地 (市区町村まで)	地位・ 職名	業務内容	従事期間	
					年・月～年・月	年月数
○	大牟田市水道局 (平成14年8月企業局に改称) 工務課	福岡県 大牟田市	工務課長 水道技術 管理者	施設管理、ポンプ場、配水池設計 監督 管路敷設設計監督	昭和54年5月 ～平成19年8月	284
	ヴェオリア・ウォーター・ジャパン(株) オペレーション部	東京都 港区	マネー ジャー	新規受託浄水場等の業務立ち上げ、 施設管理。プロポーザル案件への 提案書作成。	平成19年9月 ～平成27年3月	77
	メタウォーター株式会社	東京都 千代田区		水道技術者の育成、受託水道施設 の安定運用	平成27年4月 ～現在に至る	30
※業務経歴の中から、下記「業務内容の詳細」に記入するもの1つを選び、「詳細」欄に○を付して下さい。					通算合計年数	3811
平成						
□						

A

当該業務での立場、役割、成果等
立場と役割：昭和54年大牟田市役所入庁と同時に水道局に配属され、以来平成19年8月まで一貫して水道行政に携わった。その後民間に移ってから水道人として業務を行っている。 。当初電機技術者として、入庁したため取配送水管理部門の業務を行った。 昭和59年より、計画担当へ異動、送水ポンプ施設の設計・監督業務、送配水管布設工事や配水池の電機設備工事の設計・監督業務を行い、平成14年、集大成として5,000m3級配水池の建設に当たって、非常時給水拠点として耐震管路、緊急遮断弁を備え、防犯対策を充実させたものとするべく電機部門、土木部門の総監修を行った。 平成16年4月から平成19年8月まで水道技術管理者として安心安全な水道供給をめざし技術系職員の指導に当たった。 成果：昭和56年頃、配水池への不審者侵入の経験から扉と警報の二重化工事の設計・監督業務を担当、その後の施設新設・改良時の雛形となった。また、従来の配水池換気筒では毒物を注入される恐れがあり、コンサルタントと安全な換気筒の開発を行った。 本管とバイパス管の切換え時において濁りを発生させないバルブ等の配置計画を推進。 同一配水管網の近接する2点における減圧弁を用いた同時注入における安定制御方式の開発をメーカーと共同で行った（水道新聞にも画期的と掲載された）。 平成19年9月民間に移ってから浄水場等の受託現場の総括責任者、受託水道技術管理者等として水道事業に携わっている。